

新学習指導要領に対応した教育について

I 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について

1 わかる授業づくり5つのポイント

■新学習指導要領で目指す授業イメージ（主体的・対話的で深い学び）を市内の教職員で共有するために、「『わかる授業』づくり5つのポイント」を設定し、授業の質の向上を目指す

「わかる授業」づくりの5つのポイント



- 1 「学び合いの基盤」づくり
- 2 板書に「めあて」「まとめ」「振り返り」
- 3 思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 終わりの5分は「まとめ」と「振り返り」

2 学力・体力向上推進教員の活用

■「『わかる授業』づくり5つのポイント」の具体的なイメージを共有するため、学力・体力向上推進教員がモデル授業を年間1～2回実施する。

■学力・体力向上推進教員は、授業参観し助言する。また、授業づくりについて、相談を受け、共に考える。



3 k i t a Qせんせいチャンネル

■「授業づくり動画」により「『わかる授業』づくり5つのポイント」の具体的なイメージを共有できるようにしている。

■授業のスキルアップ等を目的に、実践事例集や教材集等の授業に関する様々なコンテンツを検索可能にしている。



4 アクティブ・ラーニング推進事業

■「『わかる授業』づくり5つのポイント」の視点を基に、授業の在り方について研究実践を行う。研究の成果を全市に発信し、成果の普及を図る。

■推進校は、小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校の計13校。

5 授業改善支援訪問

■指導主事が学校の目指す授業改善を、「『わかる授業』づくり5つのポイント」の視点を基に支援する。指導主事が年間1～2回学校を訪問し、授業参観し協議会等において助言する。学校全体で目指す授業イメージを共有し、全ての児童生徒の学力向上に資するようとする。

Ⅱ カリキュラム・マネジメントについて

1 カリキュラム・マネジメント

■教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るために、カリキュラム・マネジメントを確立する。

＜カリキュラム・マネジメント 3つの視点＞

- 1 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
→ ① SDGs の視点を踏まえた教育の推進
- 2 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
→ ② スクールプランを基にした PDCA サイクルの確立
- 3 教育課程の実施に必要な人的・物的な体制を確保すると共にその改善を図っていくこと
→ ③ 外部の教育資源の活用

① SDGs の視点を踏まえた教育の推進

- ・各校において、地域の特色をとらえ、環境、国際理解、ふるさと、福祉、キャリア、防災等の SDGs の視点を踏まえた教育活動に取り組む。
- ・こうした現代的な諸課題へ対応する能力や、学習の基盤となる情報活用能力、問題解決能力等を育成するためには、教科横断的な学習の充実が必要である。

② スクールプランを基にした PDCA サイクルの確立

- ・本市の全小中学校で活用している。児童生徒の学力・体力の向上等を図るために、子どもの実態を踏まえスクールプランを策定している。確実な実施・検証・改善の PDCA サイクルに基づいた組織的な取組を行う。

③ 外部の教育資源の活用

- ・ひまわり学習塾の推進や小学校応援団の活用など、本市の教育資源を活用する。

2 学校マネジメント支援訪問

■指導主事等が小・中学校を訪問し、スクールプランの協議および授業参観を行い、学校マネジメントを支援する。（年間 1 ～ 2 回実施）

Ⅲ 新たに取り組むこと、これからも重視することについて

1 プログラミング教育（ICT推進）

本市教育の情報化推進のため、ICTリーディングスクールとして、中学校2校、小学校2校（門司中、門司海青小、高見中、高見小）を、小学校プログラミング教育推進校として小学校3校（門司海青小、志井小、今町小）を指定し、授業実践研究を行っている。その成果は各学校の実践報告会にて公開し、広く普及に努めている。

【平成30年度取組】

○実践報告会（指定校4校）

門司中学校（ICT） … 11月30日（金） 音楽、理科

門司海青小学校（プログラミング） … 11月9日（金） 特別活動、総合的な学習の時間

高見中学校（ICT） … 11月16日（金） 理科、保健体育科

高見小学校（ICT） … 11月28日（水） 体育

○平成30年度「ICTの教育活用を推進する実践研究」実践事例集作成

小学校… 17事例

中学校… 18事例

※K i t a Qせんせいチャンネルに掲載

○北九州市プログラミング教育スタートパック作成

・動画… 2事例（算数、理科）

・指導案・ワークシート

第4学年… 音楽、算数、国語、社会

第5学年… 音楽、外国語、理科、算数

第6学年… 算数、理科

※K i t a Qせんせいチャンネルに掲載

2 外国語教育

令和2年度から、小学校中学年では「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動（年間35単位時間）、高学年では「聞くこと」「話すこと」に、「読むこと」「書くこと」の領域を加え外国語科（年間70単位時間）として実施される。本市では、平成30年度より「外国語活動」と「外国語科」の新しい学習内容を先行実施している。

【平成30年度取組】

○小学校外国語教育（中学年35単位時間 高学年70単位時間）の先行実施

○日本人外国語指導助手を15人に拡充（小学校112校に配置）

○専科教員の配置（5名）… 中学校外国語科教員を小学校外国語担当教員として配置

3 道徳教育

平成30年度より小学校、令和元年度より中学校で道徳が「特別の教科 道徳」（道徳科）として教科化されている。教科書や北九州道徳郷土資料等をもとに自分の心を見つめたり、友達と話し合ったりする中でよりよい生き方について自分の考えを深めていく。また、教科化にともない数値による評価ではなく、児童生徒の成長の様子を認め、励ます記述式の評価を行っている。

【平成30年度取組】

○道徳科の評価のあり方研修（全小学校）

○中学校道徳科スタンダードカリキュラムの作成、配布

○文部科学省委託事業「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」による道徳教育推進事業指定校（小学校15校・中学校6校）